

2018年6月期 第2四半期 決算説明資料

サイジニア株式会社(6031)

2018年2月27日

目次

1. 会社概要	P.3
2. 2018年6月期第2四半期 決算概要	P.8
3. 今後の取組み	P.13
4. 2018年6月期 通期業績見込み	P.17

1. 会社概要

会社概要

- 会社名 サイジニア株式会社
- 所在地 東京都港区浜松町1-22-5
- 代表取締役 吉井 伸一郎
- 事業内容 パーソナライズ・エンジン「デクワス」を利用した
インターネットを介したマーケティング支援サービスを提供
- 沿革 平成17年8月 サイジニア有限会社を北海道江別市に設立
平成19年3月 東京都品川区に本社移転
平成19年4月 サイジニア株式会社へ組織変更
平成20年5月 「デクワス.RECO」サービス開始
平成22年10月 「デクワス.AD」サービス開始
平成24年7月 京セラコミュニケーションシステム株式会社と業務提携を実施
平成24年9月 「デクワス.DSP」サービス開始
平成26年2月 「デクワス.POD」サービス開始
平成26年12月 東京証券取引所マザーズ市場へ上場
平成28年10月 「デクワス.CAMERA」サービス開始
平成29年2月 ファッションAIアプリ「PASHALY(パシャリィ)」をリリース
平成29年9月 ビジュアルAIレコメンデーション「デクワス.VISION」サービス開始

サイジニア株式会社とは

ネット上の情報閲覧や商品購入などに関する


ユーザー行動履歴を大量保有し、

ビッグデータから趣味嗜好性を解析する

AI等を駆使した独自解析技術を開発、

欲しいものをおすすめ、商品購入を促進する

マーケティングサービスを提供しています

「探すんじゃなくて、**出くわす**」を実現する **デクワス** を開発・提供


デクワス事業の概要

レコメンド事業



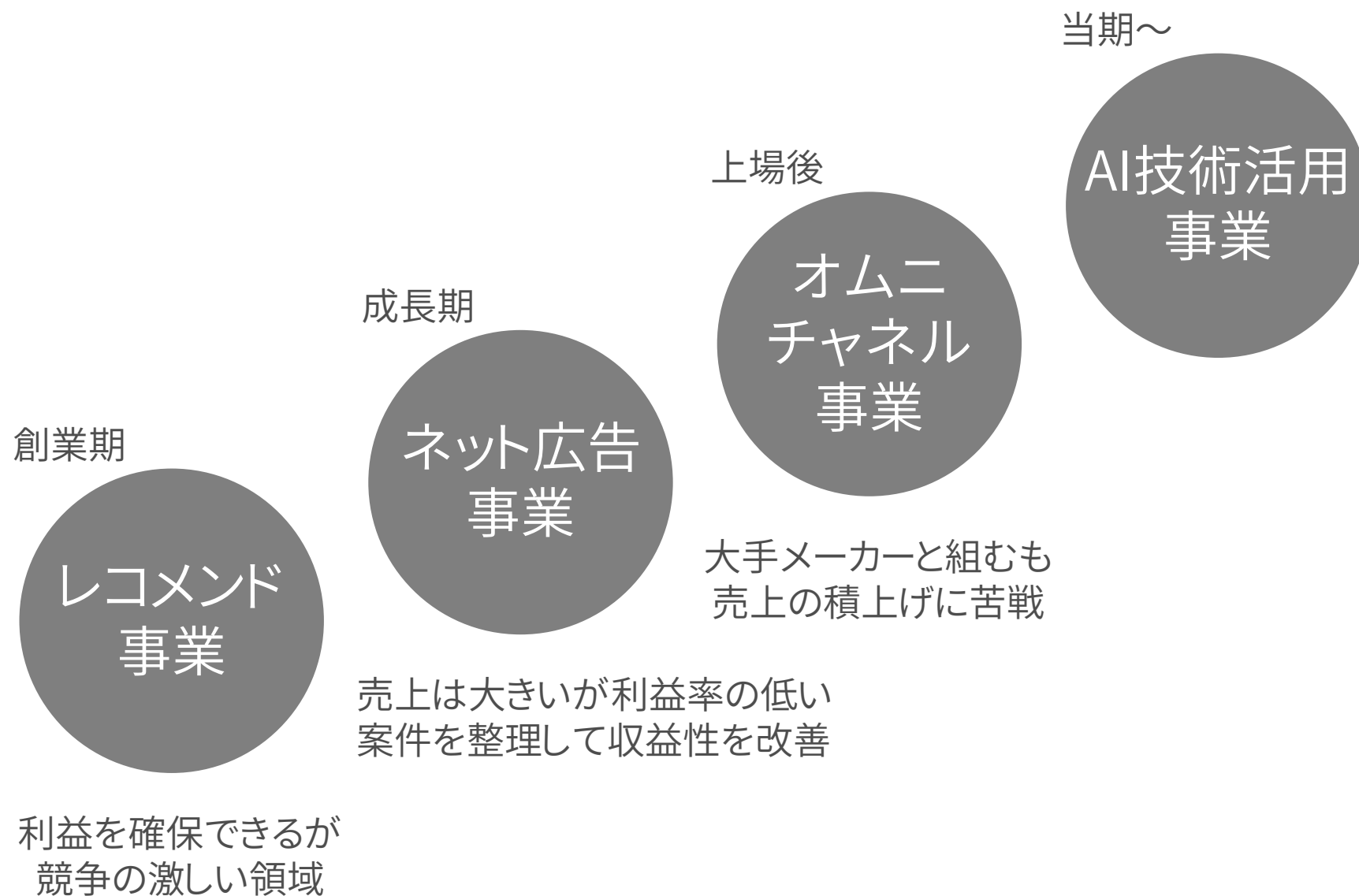
ネット広告事業



オムニチャネル事業

AI・ビジュアルコマース事業

当社の事業領域のあゆみ



2. 2018年6月期第2四半期 決算概要

2018年6月期 第2四半期ハイライト

ソリューションビジネスの本格稼働

- Slerと連携し、複数案件獲得
- 今後は新規顧客獲得のツールとしてデクワス.RECO等の販路を拡大

新規サービス分野における企画・開発

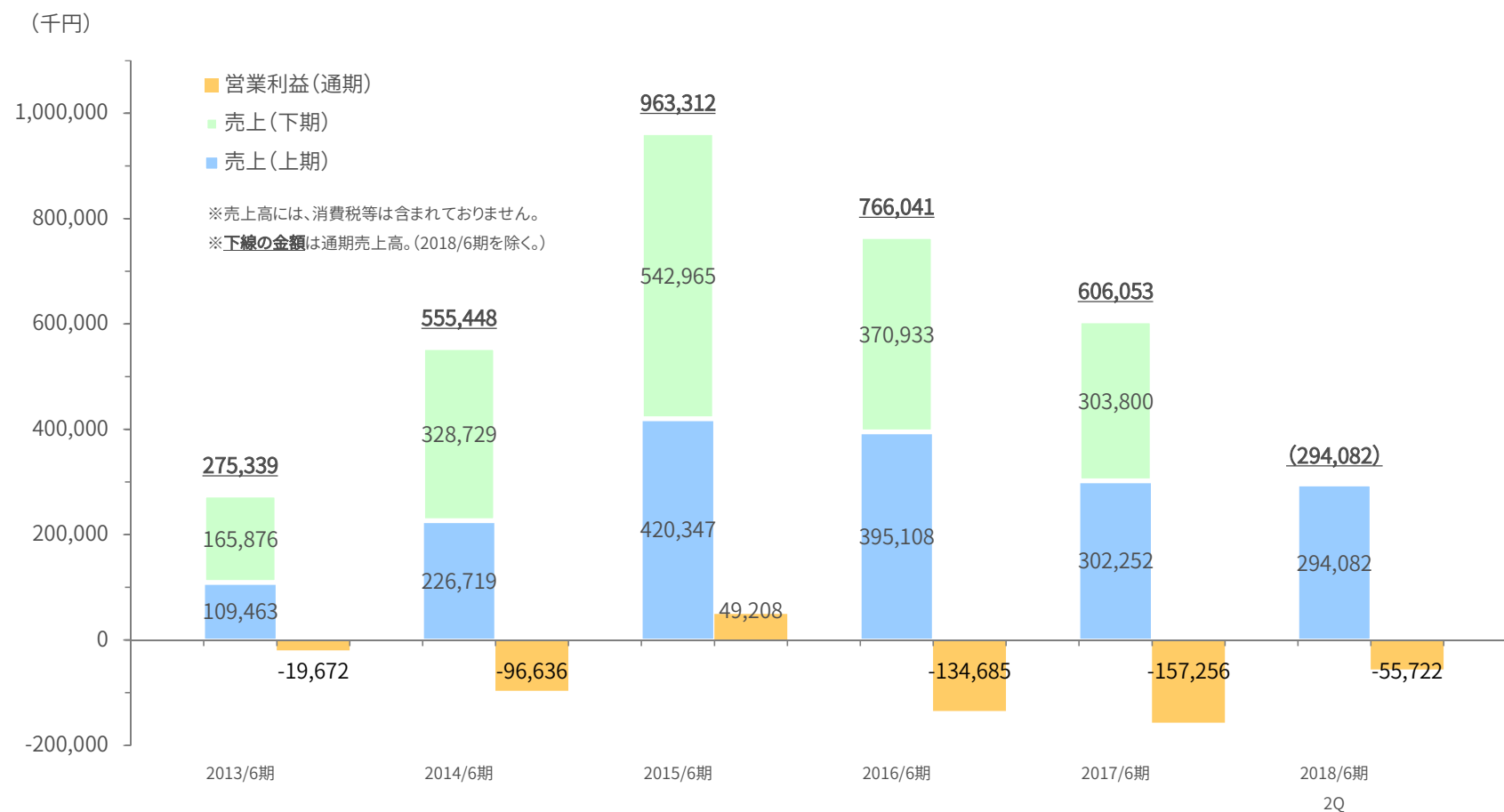
- ビジュアルAIレコメンデーション「デクワス.VISION」をサービス開始
- 行動履歴に頼らない広告配信「デクワス.AD スタートパック」を開始

コストの改善

- 計画的な人員配置と全社的なコスト抑制によって、販管費が減少

業績推移

□ 2018年6月期第2四半期は、既存サービスについては受注競争の激化や低採算案件の整理等により売上高が減少。しかし、ソリューションビジネスの売上高が増加したことにより、8百万円の減収に留まる（半期の営業利益率は前年同期比4.5ポイント改善）



損益計算書

- ソリューションビジネスが本格的にスタートしたが、利益の確保できる既存サービスの増加につながらず、売上原価率が増加
- 計画的な人員配置と全社的なコスト抑制の取り組みによる、販管費が減少
- 固定資産減損による特別損失計上

(単位:百万円)

	17.6期	2Q実績	18.6期	2Q実績	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上高		302.2		294.0	▲ 8.2	▲2.7%
売上原価		205.0		225.7	20.6	10.1%
売上総利益		97.1		68.3	▲ 28.8	▲29.7%
販売費及び一般管理費		168.0		124.0	▲ 43.9	▲26.2%
営業利益		▲ 70.8		▲ 55.7	15.1	—
経常利益		▲ 72.8		▲ 55.9	16.8	—
当期純利益		▲ 162.1		▲ 67.4	94.6	—

貸借対照表

- 流動資産：当期純損失による流動資産の減少
- 流動負債：経費削減による未払費用の減少
- 純資産：当期純損失の計上による繰越利益剰余金の減少

(単位:百万円)

	17.6 期末	18.6 2Q末	対前期 増減額	対前期 増減率
資産の部				
流動資産	711.2	653.9	▲ 57.3	▲8.1%
現金及び預金	651.1	586.8	▲ 64.2	▲9.9%
固定資産	18.9	18.9	0.0	▲0.1%
資産合計	730.2	672.9	▲ 57.3	▲7.8%
負債の部				
流動負債	68.3	58.9	▲ 9.3	▲13.7%
固定負債	6.1	6.1	0.0	0.4%
負債合計	74.4	65.0	▲ 9.3	▲12.6%
純資産の部				
株主資本	648.5	596.4	▲ 52.0	▲8.0%
純資産合計	655.7	607.8	▲ 47.9	▲7.3%
負債・純資産合計	730.2	672.9	▲ 57.3	▲7.8%

3. 今後の取組み

2018年6月期の取り組み

収益構造改革の継続

- デクワス.RECO/VISIONなど利益の確保できるサービスの受注獲得に注力し、安定的かつ継続的なキャッシュフローの創出を図る
- 当社のデータ解析技術や人工知能を活用したソリューションビジネスへの転換を進め、収益率を向上させる

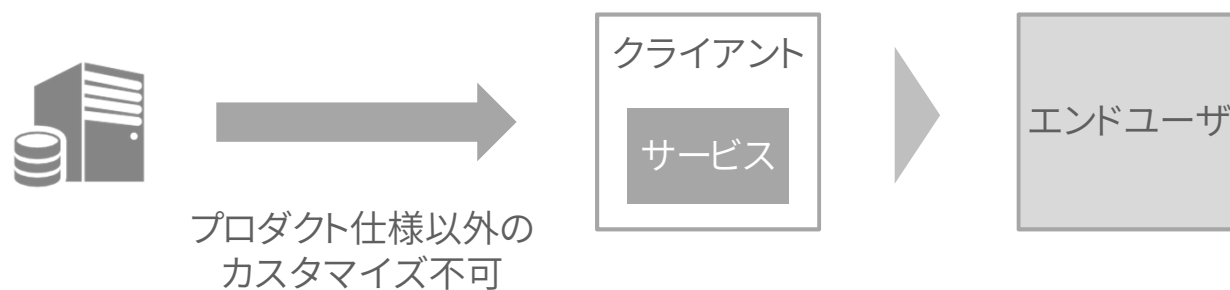
新規サービス分野における企画・開発

- 人工知能技術に関する研究・開発への投資を行い、新サービスの事業化に向けて取り組む
- 「PASHALY(パシャリィ)」については、事業化に向けてデータを収集、検証と改良を継続

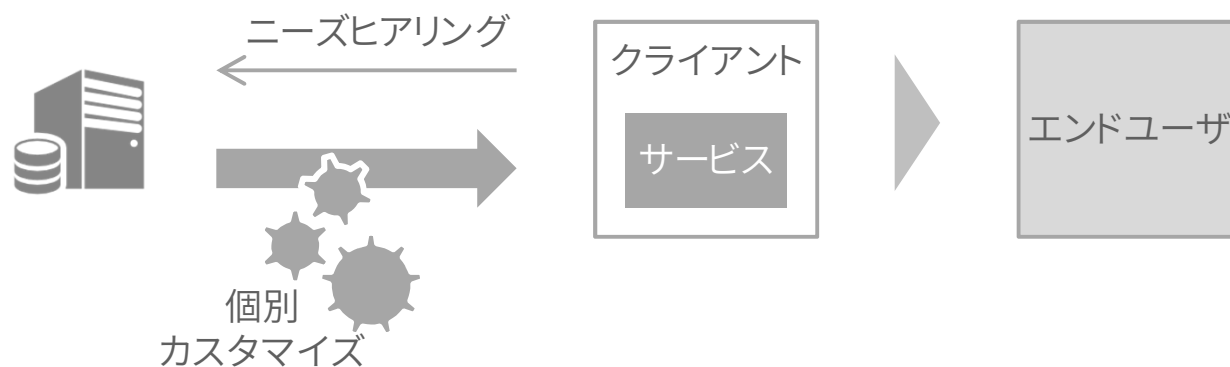
ソリューションビジネスへの転換

「モノ売り」から「コト売り」への転換を図り、AI関連システム開発のニーズに対応する

プロダクトビジネス(モノ売り)



ソリューションビジネス(コト売り)



新規サービス分野における企画・開発



画像解析エンジン

deqwas.CAMERA

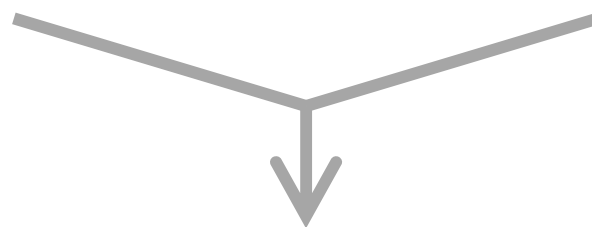
AIが機械的に特徴量を
導出して画像分類



レコメンドエンジン

deqwas.RECO

複雑ネットワーク理論による
パーソナライゼーション



deqwas.VISION

ビジュアルAIレコメンデーション

4. 2018年6月期 通期業績見込み

2018年6月期 通期業績見込み

- 既存事業の収益性向上と新規サービスへの投資を通じて収益構造を改革
 - 既存サービスの機能向上により、4Q以降は売上高、収益の増加を見込む
 - 新規サービスの実用化により、4Q以降は売上高、収益の増加を見込む

(単位:百万円)

	17.6 通期実績	18.6 通期予想	対前年増減額	対前年増減率
売上高	606	720	+113	18.8%
営業利益	▲157	▲94	+63	-
経常利益	▲158	▲95	+63	-
当期純利益	▲250	▲96	+154	-

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

scigineer
science and engineering